

創造

JA いけだ
CREATION



Close up

2011.

JANUARY

No.013

- * 謹賀新年 平成23年の新年を迎えて
- * 22年産雑豆生産 平年をやや下回る

謹賀新年



平成23年の新年を迎えて

代表理事組合長 鈴木雅博

平成23年の新春を迎え、組合員並びにご家族の皆様にご挨拶を申し上げます。また、日頃から農協事業にご理解とご協力を戴き心より御礼申し上げます。

昨年は、全国各地で猛暑日が続き、記録的な暑さにより熱中症で緊急搬送された人数が4万人以上という厳しい夏でした。池田町においても6月26日に35.6度を記録する異常な高温の年になりました。春耕期から4月5月の降雨や低温により遅れていた農作物ですが、6月以降の

作況調査においても各作物とも春先の遅れを著しく回復し、生育はプラスに転じて収量的にも期待をしております。しかし、7月23日より刈り取りが始まった小麦は、出穂してからの猛暑により一気に枯れ上がり、実が入る成熟期間が平年よりも10日間も短く、そのため不稔や細麦が発生し収穫量の減収となりました。

馬鈴薯、甜菜は春耕期の不安定な天候による遅れ、排水性の悪い圃場での湿害、さらに猛暑による品質低下と減収という天

候に泣かされた1年でありました。地球温暖化、異常気象という問題を現実を感じる年でもありました。

また、畜産においては、宮崎県で4月20日に最初の口蹄疫感染疑い例が発生して以降、県内5市6町292例に広がり、約29万頭の家畜が処分されるといふ未曾有の家畜被害となりました。帯広空港にも消毒用のマットが置かれ、7月開催予定の十勝農機展は来場予定者が20万人を超える大きなイベントであるため、防疫対策を優先し延期と

なりました。池田町内においても農協事務所やAコープにも消毒用のマットが設置され、各農場への立ち入り禁止看板、消石灰散布など防疫体制がとられました。宮崎県家畜農家の悲しみは他人事ではなく、それは同時に地元や近隣で発生することの恐ろしさも映像を通じて痛感させられることでした。家畜防疫対策に大きな教訓を残した出来事でありました。

発生から4カ月余り、まだ暑さの残る8月末に家畜処分が終了し終息宣言

が出されました。被害にあわれた畜産経営農家の再建と地域の復興を心より願う次第であります。

農業の営農環境には大変厳しい年でありました。しかし、組合員の年末収支状況においては、現行の農業制度によって、かなりの部分が補填された年だったと思われま

代表理事
組合長 鈴木雅博

常務理事
藤田千景

筆頭理事
金川佳則



1月号 CONTENTS

表紙	1
Close up	2
21NEWSアラカルト	8
しょくいっつうしん	11
営農部通信	12
農産部通信	14
畜産部通信	16
今月のオススメ	18
理事会の動き	18
編集後記	18





表紙

1月号の表紙写真は利別地区の宇高大輔さん家族を撮影してきました。前列左より長男・颯人くん(4歳)、次男・秀真くん(2歳)、後列左より奥様の友紀子さん、大輔さん。

本年からは、戦後農政の大転換といわれた「水田畑作経営対策」から新制度「畑作戸別所得補償制度」が導入されます。新制度は数量(成績)払いの比率にウエイトを置き、手取り収入を得るためには、作物の高収量を目指す仕組みであります。

しかし、増産を奨励する作物の出口対策(増産分の需要と価格問題)が不十分であり、新制度を継続させるには出口対策と財源確保が急務であると思われます。また、永続的な農業経営に必要な明暗渠基盤整備事業予算は充分とは言えず、農業予算全体では削減されており経営者負担が増えることが予想されます。農業の衰退を解決するためには、農業政策が必要です。日本全国すべての農業者への戸別所得補償は巨額の財政支出が必要であり産業政策というよりバ

ラマキの保障政策であります。日本の食料基地である北海道や十勝の専業農家への充実した対策を粘り強く望みたいと思えます。

昨年10月菅総理大臣は、経済の停滞、外交の不手際を背景に突然TPPへの参加交渉に向けた関係国との協議開始を宣言して、「経済連携や自由化の促進を平成の開国という形で押し進める」と意欲を示しました。ついこの前の、金融危機や穀物輸出制限など食料危機を忘れたように「経済市場拡大と強い農業振興を両立させることが重要だ」という参加に前向きな姿勢に対して、JAを中心に全国でTPP交渉参加阻止の運動が行われております。十勝総合振興局の試算では十勝地域経済への影響は5000億円を超え、そして4万人の雇用に影響が出ると試

算され11月28日3000人予定の反対集会が4000人を超える全国最大規模の集会になりました。このことは農業者への影響だけではなく基幹産業の農業を中心に製糖業、澱粉、乳業、運送業など十勝には関連企業も多く雇用も含めて地域経済に及ぼす影響は計り知れないからであります。農業だけの問題ではなく、すべてを市場原理に放り込む姿勢に国のあり方が問われているのだと思います。

百年に一度と言われる金融経済危機は、すべて解決してはいないとされています。節度のない経済や際限なく膨張する金融を放置したままでは危険を避ける事は出来ないとい続ける学者もいます。長期にわたる経済低迷の中で、格差は拡大し都会でも失業者や貧困層のいる日本が、無策のまま農村まで崩壊

する自由化を選択することには、しっかりと反対の意思表示が必要であります。

今年も農業をとりまく情勢は激変の年となりますが、長年かけて築きあげてきた地域の環境を永続的に発展させ未来につなぐために役員一同取り組んで参ります。

今年こそ天候に恵まれた豊稔の出来秋を組合員皆様と共に喜べる年でありますよう心から願う次第であります。

組合員各位とご家族の皆様にとりまして最良の年になりますようご祈念申し上げます。

今年もよろしく
お願いいたします

員外監事	監事	代表監事	信用担当理事 金融部長	理事
中島健藏	野上慶春	武田茂	鴨川栄一	石川豊基
			永原明男	中西悦夫
			原口勝	十河豊治
			十河学	清水豊



新年にあたり

北海道農業協同組合中央会 会長 飛田 稔 章

組合員をはじめJA役職員の皆様方が、希望に満ちた平成23年の新春を、「家族とともに迎えられることを心からお喜び申し上げます。

昨年の北海道農業は、まさに異常気象にみまわれた一年でありました。春先の天候不順が一転し6月には好天に恵まれ、豊作の出来秋に大きな期待を高めました。夏以降、猛暑・豪雨等により、作物全般にわたり総じて収量低下や品質低下が見られ、生産者・JAの努力が報われない厳しい出来秋となりました。

また、北海道農業は、農業者の高齢化と担い手の不足など、地域農業の構造変化が続く中で、農地制度改革や食料・農業・農村基本計画の見直し、平成22年の米モデル対策を経て平成23年

は水田経営に加え畑作経営で実施される戸別所得補償制度など農業政策は大きな転換期を迎えております。

特にTPP（環太平洋連携協定）に関しては、菅首相の所信表明演説での唐突な参加検討の表明以来、国内は激震が走り大きく揺れています。JAグループ北海道は、この問題が北海道にとって重大な事柄であり、経済団体・消費者団体なども連携し、JAグループ北海道をはじめ漁業・林業に加え、道経連・道消費者協会等56団体共催のもとにオール北海道で昨年11月12日『地域社会のあり方等』「この国のかたち」を問う道民総決起大会を開催し、1700人も

北海道農業・農村確立連絡会議」として、北海道知事らとともに、政府や与野党に「農業者はしっかり生産し、国民にとって大事な食料を供給する」という、この基本を崩さないよう強く要請致しました。

この問題は、まさに「この国のかたち」のゆくえが憂慮させる事態であり、組合員の営農と生活を守るためにも政府の暴走を断じて許すことはできません。今後北海道の総力を挙げて強力な運動を展開してまいります。さて、本年は『協同の力で築く』「あすの食をささえる北海道農業」を主題に開催した第26回JA北海道大会の実践2年目を迎えます。この決議事項である「北海道農業の潜在能力のフル発揮への挑戦」は、国民の命の根源である食料生産を担う組

合員が安心して農業経営に従事し、さらなるステップアップを図り、食料自給率の向上に寄与し安全・安心な農畜産物の安定供給を通じて、消費者の皆さんに北海道農業を応援していただくための取り組みです。

また、JA経営では「協同と信頼の絆で築く新時代のJA」の実践によって、経営の健全化と強靱な経営基盤を確立し、組合員の期待に応じられる高度な事業機能を有するJAとなることをめざすものであります。今後、景気の低迷や農業貿易交渉等の進展によっては、農業への影響が大きく懸念されますが、全道の組合員の皆様をはじめJA役職員が「一人は万人のために、万人は一人のために」という協同組合の理念をよりどころにして、JAへの結集を強

め協同運動を強力に展開することにより、この苦境を打開し未来を切り開くものと確信しております。

本年こそは災害がなく、豊稔の出来秋を迎えることができ、北海道農業の発展と成長をめざし飛躍の「卯年」となりますよう心から祈念申しあげ、新年のご挨拶と致します。

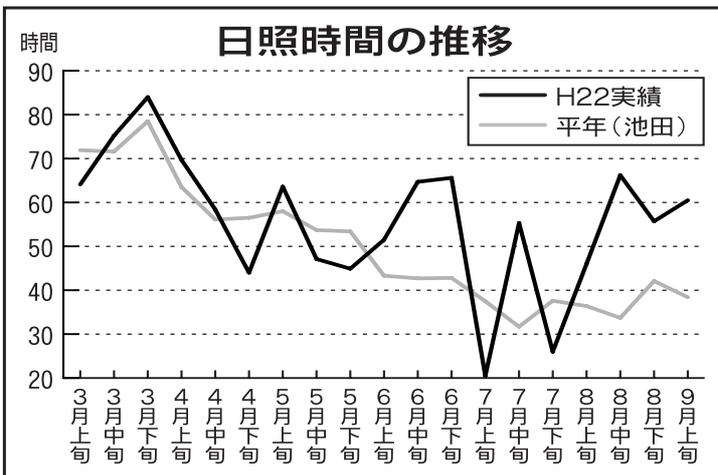
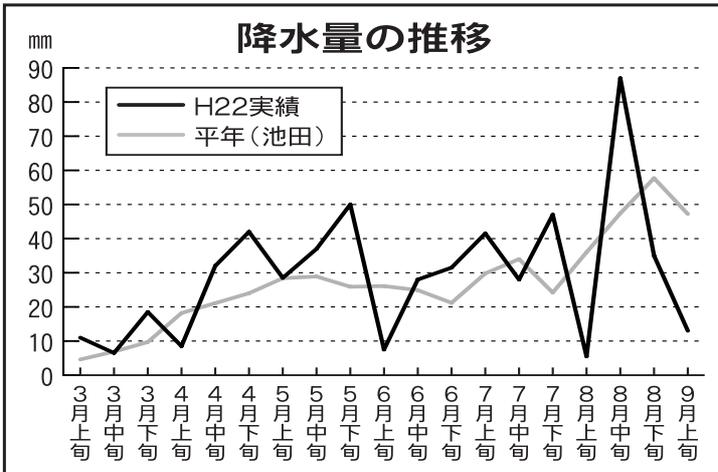
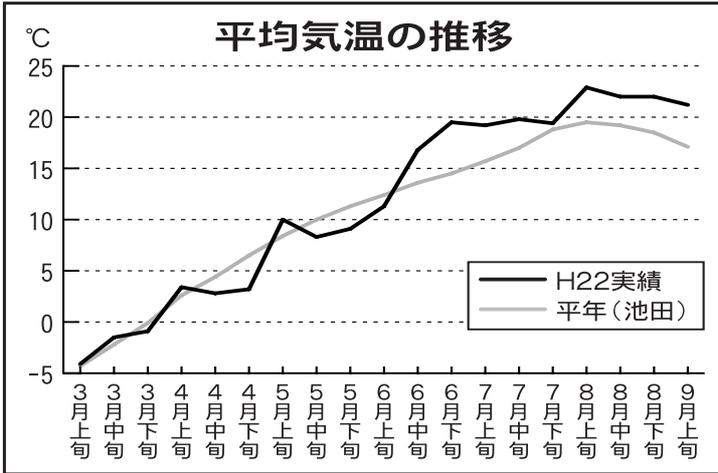


22年産雑豆生産 平年をやや下回る

平成22年産の雑豆生育・生産・収穫状況についてお知らせいたします。

① 気象状況

昨年の気象状況につきまして



は、播種時期となる5月は平年より低温で推移し、播種及び発芽遅れ、冷夏が心配されましたが、6月中旬からは一転、例年

3月～9月の平均気温の積算気温は、230.9℃となり、

の降雨量はないものの、6・7月及び8月中旬は、まとまった

にない高温で推移しました。特に、6月26日には、観測史上稀に見る真夏日(35℃超え)を記録するなど、温暖化を予感させました。

平年より21.4℃以上高く推移し、6月中旬から9月上旬までの平均気温は、平均比+3.2℃高く推移しました。

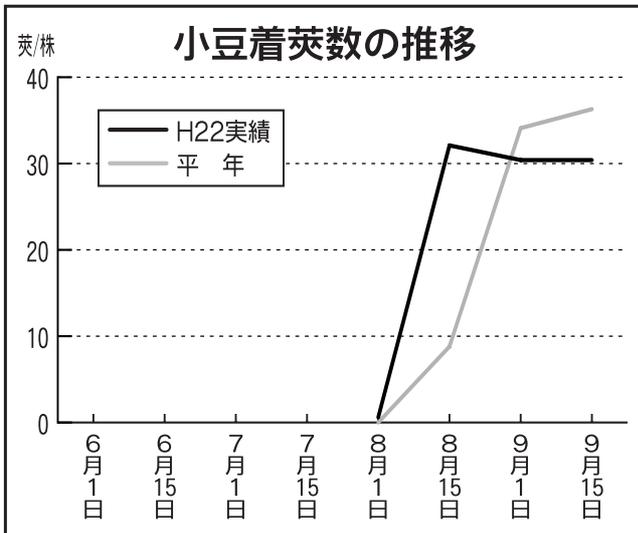
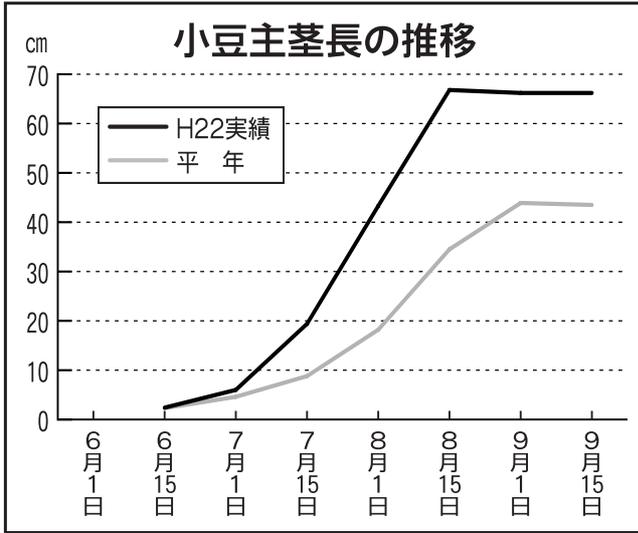
降雨となり、3月～9月の積算降水量は、522mmとなり、平年比105%(+27mm)となりました。

日照時間については、まとまった降雨が続いた、7月以外は平年を常に上回り、気温の上昇に繋がりました。

② 生育状況

小豆の生育状況(普及センター東部支所調査による)については、草丈(初期生育)は平年並みに推移していましたが、7月中旬からは平年を上回り、最終的には、66cmを超え、平年比152%(+22.7cm)となり、圃場によっては分枝が繁茂し倒伏する圃場もありました。

着実数については、生育ステージがかなり前進していたため、8月からの有効着実数の、出現が例年よりも早く、8月中旬には1株当たりの有効着実数が30



莢を超えました。しかし、その後の、有効着莢数の増加は見られず、落莢も発生し、最終的な収量は、平年を下回り30莢/株、平年比84% (△5・9莢/株) となりました。

小豆の減収要因は、高温による、受精障害、落莢、登熟期の短縮、また、1夾内粒数の減少や小粒傾向によるものと考えられます。

特に、生育期後半も高温で推移し、莢は成熟しながら、植物生体内に滞留するエネルギーを

③ 品質 および収穫

最終的な収量については、小豆類のみならず、菜豆類にも同様の傾向が見られ、平年をやや下回る結果となりました。

倒伏や花芽を持つなど、平年の生育とは全く異なる状況となりました。「専門用語では、莢先熟(さやせんじゅく)と言います」

本年は、「莢先熟」のため、莢葉や青莢の混入により収穫作業には「苦労されたと思います」が、刈り倒し後の地干しにより、莢葉水分を下げた収穫作業を行って頂きました。

収穫的には、平年作をやや下回ったものの品質については、小豆は種皮色が濃赤色となり、色揃えは良く等級的には2等中心の上位等級となりました。しかし、収穫後半は降雨の影響もあり、倒伏により地面に付いている莢(子実)の腐敗が進み、等級を下げることとなりました。

菜豆類は、小粒傾向ではありましたが、大きな製品率の低下は見られませんでした。

しかし、福勝金時については、子実水分が早くから低下したことから、子実の皮切れ粒発生により等級低下が発生しました。

対応としては、子実水分が19%〜17%での適期収穫や、ピックアップスレッシャー(豆の収穫機械)への大きいブリーリの装着、爪の脱着、作業速度の減速などにより、皮切れ防止に努めて頂きました。

大豆系は、着莢数多く大粒系となり収量的には高いものの、品質的には「ひげ」「しわ」など、通常年にはあまり見られない品質低下により、等級を大きく下げることとなりました。

このような状況の中、農協の集荷状況は皆様の協力により、約35千俵余りの集荷(前年比152%)となりましたことを、お礼申し上げます。

今後、有利販売に努めると同時に、安定した所得確保のための契約栽培拡大に向け取り組んで参りますので、皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

尚、22年度度の需給情勢については、情報誌(2月発行)で詳しくお知らせいたします。

④ JA豆類 生産状況

当JAの豆類品目別の平均単収については、金時類3・5俵/10a、小豆類3・9俵/10a、手亡類4・3俵/10a、大豆類5・2俵/10aとなりました。

その中でも、絹手亡は、大粒系大手亡であります、収量性

平成22年産 地区別豆類単収

(10a当たり：俵)

品目 地区名	金時類			小豆類					手亡類		大豆類	
	大正	福勝	福白	エリモ	きたのね	きたろまん	白小豆	大納言	絹手亡	姫手亡	光黒大豆	ゆきひりか
清見 1	3.6	3.8	2.8	4.2	4.1	5.5			4.0	5.2		
清見 2	4.2	3.8		4.2	4.9	4.6			5.3	4.5	5.3	
昭栄南	3.8	3.5		4.6	4.4	3.9					4.5	
昭栄	3.3			3.9					4.6			
昭栄北	3.7	3.5	3.6	4.9	4.0				4.7	4.8	4.9	5.8
東台 1	3.6	3.9	2.1	3.8	3.9	3.6			3.9		5.0	5.5
東台三愛	2.1	2.5		4.8								
東台幹線	2.9	3.7	2.8	4.3	3.4	3.1	3.5		3.5		4.2	
川合 2	4.1	3.9	3.6	4.0	4.1			3.6	5.1	5.4	6.2	
様舞	3.4	3.8		4.0					2.0			
池田地区計	3.5	3.6	3.0	4.3	4.1	4.1	3.5	3.6	4.1	5.0	5.0	5.7
利別	3.4	3.7	3.3	3.6	3.7			4.0	4.4		4.9	
川合	5.1	3.7		4.2						5.5	6.0	
千代田東	4.1	3.8		4.0	4.0				4.4			
千代田南		3.9	3.4	3.7				3.7	3.5		6.2	4.8
千代田北		4.5		3.6	4.0			2.0				
豊田 1	3.6	3.5	2.6	3.5			3.8	2.4	2.8		5.6	6.5
豊田 2		3.1	2.4	3.8					3.9		4.3	
青山・十日川		3.1	1.9	3.5		3.1	3.6	3.8	3.6		5.3	
利別地区計	4.1	3.7	2.7	3.7	3.9	3.1	3.7	3.2	3.8	5.5	5.4	5.7
全地区計	3.8	3.6	3.1	3.9	4.0	3.8	3.7	3.7	4.2	5.1	5.2	5.7
最高	5.1	4.5	3.6	4.9	4.9	5.5	3.8	4.0	5.3	5.5	6.2	6.5
最低	2.1	2.5	1.9	3.5	3.4	3.1	3.5	2.0	2.0	4.5	4.2	4.8



(記事・農産部長 大塚 節)

22年産契約栽培（特別栽培含む）については、11月末をもって精算させて頂きました。本年度の契約栽培参加申込数量は、小豆・大納言・金時・手亡など合計で10,257俵となっていました。高温・多湿の影響で、契約数量未達の生産者もあり、実績では10,068俵（参加比98%）となりました。本年の作柄から、概ね契約単価と相場の乖離は大きくありませんでしたが、福白金時については、年間消費量を大きく上回る作付・生産量（供給量）となったため、相場は急落しました。しかし、契約単価については維持され、手取りの確保に繋がったと考えられます。次年度も、契約栽培に取り組んで参りますので、是非ご参加ください。

22年産豆類
契約栽培1万俵精算

平成22年産 契約栽培（特別栽培含む）実績

品 種	契約精算数量	精算金額(千円)	平均単価(円/俵)
小豆(大納言含む)	6,626俵 20kg	127,143千円	19,188円/俵
金時(福白含む)	1,050俵 16kg	22,184千円	21,122円/俵
大手亡	1,971俵 40kg	32,226千円	16,345円/俵
黒大豆(特栽培大豆)	420俵 (大豆含む)	4,886千円 (大豆含まず)	16,288円/俵 (大豆含まず)
計	10,068俵 16kg	186,439千円	—

管 理 課

情報セキュリティ
対策説明会

11月25日、
12月7日、職
員に向けて
「情報セキュ
リティ対策説
明会」を開催
致しました

(写真)。第26回JA北海道大会において「経営の健全化・透明性の確保とリスク管理の強化」の観点から情報セキュリティ対策に取り組むことが決議され、平成22年度より全JAで必要最低限の対策（ミニマムレベル）に取り組むことになりました。すべての情報（印刷物・パソコンデータ・電子メール・携帯電話メモリなど）が対象となることを再認識し、情報セキュリティ対策手順書に応じた情報資産管理に努めてまいります。

(記事・管理課長 遠藤泰志)

施 設 課

農産センターパート
従業員慰労会

12月10日
(金) 午後6
時から十勝川
温泉の第一ホ
テルにて、毎
年恒例の農産
センターパー



ト従業員の慰労会を開催致しました(写真)。

当日は、総勢55名のパート職員に出席して頂き、大塚部長の挨拶で開会し美味しい料理やお酒のほかビンゴ大会も行い大いに盛りあげられました。パート従業員の方には温泉につかり1年間の疲れを癒し、今後とも当JAの良質で美味しい農産物加工調整にご協力いただきたいと思います。今年1年間ご苦労様でした。

(記事・農産部施設課次長 山内 守)

21NEWS
アアラカルト

第9回北海道あか牛枝肉共励会



今日のニュース

- ▶管理課
情報セキュリティ対策説明会
- ▶施設課
農産センターパート従業員慰労会
- ▶畜産課
北海道あか牛枝肉共励会
- ▶営農課
TPP反対 十勝大会
- ▶青年部
第35回JA十勝青年部大会
- ▶青年部
冬期研修を実施

畜産課

北海道あか牛枝肉共励会



北海道あか牛振興協議会（長島典雄会長）主催による第9回北海道あか牛枝肉共励会が、11月26日（金）、北海道畜産公社道東事業所（西帯広）において開催されました。今年度は当JA和牛生産組合あか牛部会と、道南のJA新はこだてあか牛生産振興会の道内2地区より合計21頭が出品されました。

日本食肉格付協会帯広事業所・曾谷所長による厳正な審査の結果、最優秀賞にはJA新はこだて東出雅史さん出品の去勢「祐太郎」（等級A-4、BMS5・BCS3）、優秀賞一席には池田・長島典雄さん出品の雌「ももみ」（同A-4、同6・4）が入り（写真）、その他の受賞者は以下の通りです。

優秀賞二席に道南・多田幸広さん、優良賞は道南・岡山徹さんと池田・太田孝臣さん（2頭）。

脂肪交雑（刺し）の度合いを示すBMS値においては、地元「いけだ牛」の中にも最優秀賞牛を上回る6がついたものが何頭もありましたが、ロース芯面積、かぶりのポリウム、肉の締まりやきめなど、肉全体のバランスが良好と評価された東出さん出品の「はこだて和牛」が、2年連続最優秀賞の栄冠に輝きました。

褐毛和種の主産地である熊本県からの来賓、県畜連の古賀販売課長より、地元産をしのぐ品質の出品牛も見受けられたと賞賛の言葉をいただき、関係者一同北海道産「あか毛和牛」の更なるレベルアップへの意欲を新たにしました。

来年度の第10回は、JA新はこだて地元での開催が予定されています。

（記事・畜産部長 古川勇一）

営農課

TPP反対
十勝大会

環太平洋連携協定（TPP）交渉への参加に反対する「TPPから食卓と地域社会を守る十勝大会」が11月28日、午後2時より十勝農協連・家畜共進会場（アグリアリーナ）で開かれました（写真）。

十勝地区農協組合長会と全十勝地区農民連盟が主催し、行政・商工業関係・消費者協会など26の機関・団体より4,000人が参加し、TPP交渉への参加反対の大会アピールを採択しました。当初は3,000人規模の大会を予定していましたが、関連産業などから参加の申し出がありこれまでにない規模の大会となりました。

池田町からは町、商工会、農民同盟、農協より180名が参加しております。

大会は十勝地区農協組合長会塚会長の開会挨拶、全十勝農民連盟山田委員長の情勢報告の後、十勝総合振興局竹林局長をはじめ各界より6名の方々による意見表明が行われ、地域に与える影響を懸念する意見が出されました。

続いて、①例外なき関税撤廃を原則とするTPP交渉への参加に反対する。②政府は全ての貿易交渉にあたり、例外措置として重要品目の関税を維持するべきである。との大会アピールを採択。最後に十勝地区農協青年部協議会黒田会長と十勝地区農協女性部協議会河田会長の音頭でガンパロウを三唱しました。

（記事・営農部長 川村雅貴）

青年部

第35回 JA十勝 青年部大会

第35回JA十勝青年部大会がベルクラシックにて開催、大会終了後には十勝地区農協青年部協議会60周年記念式典及び祝賀会も行われました(写真)。

当青年部は23名が参加し、JA青年の主張発表会、分科会日程をこなし、記念講演として農林水産省前農林水産事務次官 井出氏の今後の日本農政の展望などについて基調な話しを聞くことが出来ました。

祝賀会では余興としてアームレスリングがあり、千代田の中村俊夫君が参加、3回戦まで勝ち上がる勇姿に部員も拍手で健闘を労っておりました。

各JAの盟友とも交流ができ、大変有意義な一日になったのではないのでしょうか。

来年は実績発表報告が当番となっており、既に準備が始まっております。

(記事・営農部営農課 梶木和也)



青年部

冬期研修を実施

今年の研修は、部員待望の一泊研修を実施致しました。札幌方面へと向かう途中、夕張にて「メロン熊」の出没に一同感動しつつ初日の研修先「酪農学園大学」に到着(写真右)。

ここでは、工藤英一教授の講話拝聴。TPPなど最近の農業政策に対する農家の取り組みへの課題、特に消費者の農業への理解促進の重要性を説明して頂きました。その後、インテリジェンス牛舎、バイオガスプラント等、最新の酪農教育施設を見学。環境を重視した酪農モデル説明を受けました。その日の夜は、恒例のススキノでの懇親会。寒さに負けじと札幌の夜を満喫しつつ、体を張って道内経済の実況調査を実施。とても有意義な調査内容となりました。



2日目は、ホクレンの「くるるの杜」を見学(写真左)。全道の農産物を扱う直売所に、その販売物を使用したレストラン、体験農場や研修施設が一体になった複合施設。これからの農業を意識した新しいタイプの施設であり、大きな可能性を感じることが出来ました。

今回の研修は、これからの農業の大きな変化に対し、今の農家が何を求められているのか実感させられるものとなりました。(記事・青年部副部長 山内道治)



お母さんと一緒に頑張って作るよ♪



今回の講師は女性部の皆さんです



青年部のお兄さんも一緒においしく頂きました!



無事完成しました!

11月28日(日) ☀️ 第6回目作業

✎ 食育事業加工作業 (今年度最終回)

10月に収穫された大豆の調理を、11月28日に池田小学校にて行いました。

当日は6家族が参加。食育事業の全工程の最終でもあり、役場や普及センターなど池田町農業構造政策推進協議会のメンバーが集結しての実施となりました。

女性部が中心となった加工作業は9時より開始され、今回のメニュー3品(黒豆ご飯、ジュース、黒豆と小魚のまんまる揚げ)の豪華ラインナップを、手作りレシピと窪田先生(女性部長)のご指導のもと、各家族に女性部員の精鋭の方々がサポート役として付きながら、親子の共演による料理が始まりました。

女性部の皆さんの下準備も万全であったので、順調に作業は進み、子供達もお母さんと一緒になって慣れない手つきながらも、一生懸命作業に打ち込んでいたため、開始から約2時間後にはすべてが完成し、室内は料理のいい匂いが充満し、食欲をさらにそそる状態となりました。

各家族の食事テーブルには青年部や女性部も加わり、事務局の「いただきます」のかけ声で、食べることとなりました。「美味しい」の声が飛び交い、箸も進んで会話も大いに盛り上がり、楽しい一時はあっという間に、最後の作業となる後片づけを全員で行いました。最後には、宇高部長と窪田部長より食育事業全工程終了にあたり挨拶を頂き、ぜひ今後もこの事業へ参加いただけるようお願いし、無事本年度の食育事業を終えることが出来ました。

参加していただきましたご家族の方、改めましてありがとうございました。初めてこのような形の事業運営となり、大変ご迷惑をかけた部分もあるかと思いますが、今後もさらに事業発展に向け、関係機関と連携しながら行っていきたいと考えていますので宜しくお願い申し上げます。この文章を通じて、関係機関の皆様にもお礼を申し上げます。食育通信は、今後も続きますので宜しくお願いします。

営農部通信

営農部
営農課

▶ 農業経営基盤強化準備金申請始まる

平成19年度より今制度が開始され、22年度も同様に進められますが、既に利用をされている方も含め、制度の中身を再確認し有効に活用頂きますようご案内申し上げます。

今通信におきましては、簡単な説明とスケジュールの流れをご説明し、詳細は別冊（情報ステーションNo25）をご覧ください、ご確認ください。

◎ 農業経営基盤強化準備金制度とは

水田・畑作経営所得安定対策関係交付金（固定払い、成績払い）や戸別所得補償モデル対策などの交付金などを受領した場合、所得税の課税対象となりますが、認定農業者などの意欲ある農業者が農業経営改善計画に基づき、受領した交付金などを農用地や農業用機械の取得に充てるために準備金として積み立てた場合、この積立金は税法上「必要経費」に該当し、当該年の課税所得から控除することができます。

→実際申請すると、5年以内に準備金の取り崩し、又は積立ではなく当該年に受領した資産に対して交付金を活用する場合、当該資産を「圧縮記帳」することができます。

◎ 今制度の注意点

- ・文章中に「積立」、「準備金」と出ていますが、その金額を貯金しなければならない訳ではありません。あくまでも、特例措置を受け資産取得に向けた準備を進めることです。
- ・資産取得計画が無いのに制度にのることは、将来的な負担になりかねないので、十分理解した上で活用ください。

※積立し準備金の取り崩しが行われなかったら、5年後課税対象となります。

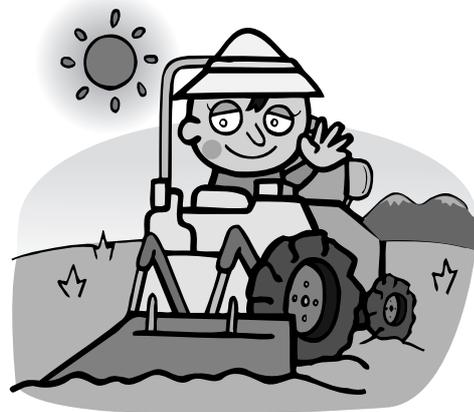
農業用機械は減価償却費との兼ね合いにより、特別有利に働く訳ではありませんが農地取得予定がある場合は活用をお勧めします。

◎ 手続き

基本的には個人申請ですが、JAにてお手伝いを致しますのでご相談ください。

確定申告の提出期限、平成23年3月15日までに証明書、申請書は平成23年2月11日までに農政事務所への提出期限ですので、お早めに手続き願います。

既に積み立てている方は、計画書の控えを持参頂きます。



▶「狩猟免許出前教室」のご案内

近年、野生鳥獣による農林水産業の被害をはじめ、人間生活と鳥獣とのあつれきは深刻化しております。こうした中、野生鳥獣の保護管理の担い手として、地域の自然環境に精通し、地域社会に貢献する狩猟者や狩猟の技術はこれまで以上に必要とされていますが、狩猟者は高齢化のため狩猟免許を手放す人が多く、地域によっては被害の防除活動に支障がある状況も生じております。

先にFAXでもご案内しておりますが、この度狩猟免許の取得を促進し、免許取得者自ら被害防除が行えるよう「狩猟免許出前教室」を実施しますので是非ご参加ください。

1. 開催日時 平成23年1月12日(水) 午後1時30分より(90分程度)
2. 場 所 十勝池田町農協本所・大会議室
3. 講習内容 ①現在の野生鳥獣の状況や被害について
②鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律の解説
③狩猟免許試験受験方法
4. 参加を希望される方は、平成23年1月8日までに農協・営農部までお申し込ください。
(参加費は無料です)
5. 広報12月号でご案内しましたが、1月30日に「狩猟免許試験予備講習会」、2月6日には「狩猟免許試験」が実施されますので、免許取得を検討されている方は是非参加をお願いいたします。

▶免税軽油制度の廃止報道

1. 免税軽油制度の現状

平成21年度より地方税法が改正され、軽油引取税を含む道路特定財源が一般財源化されたため、「道路を走らない」という免税軽油の根拠が成り立たなくなりました。

よって、国は従来の免税軽油制度を平成21年度から3年間(平成24年3月末まで)暫定的に延長することで、当面の対応を図りました。

2. 廃止報道について

十勝毎日新聞において9月15日と12月10日の2度「廃止」との文言で報道されていますが、実際には「暫定期間が終了する」という意味です。

暫定期間の延長措置については、現在関係政府機関にて協議されています。

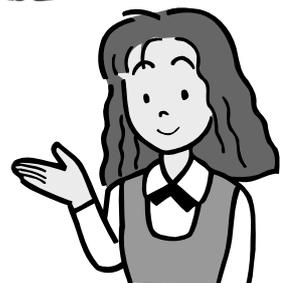
3. 系統の動き

現在、全中が窓口になり国に対し免税軽油制度の延長を働きかけています。

▶JAいけだ広報「創造」アンケートの実施

平成22年度1月より、JAいけだ広報もリニューアルを図り1年が経過しました。今後もよりよい広報を作っていくため、別紙のようにアンケートを実施したいと思います。

字の大きさ・見やすさ・内容の充実等々、どのようなことでも構いませんので皆様の声をお聞かせ願います。アンケートを集約し、今後の広報作りに役立てていきたいと思っております。



農産部通信

農産部
農産課・施設課

▶ 指導チームの活動

◎ 平成22年度 各種試験圃結果について

以前より報告の通り今年度「指導チーム」では生産量・品質の向上、生産コストの低減に向けた栽培技術の確立を目標に、栽培技術及び肥料・農薬等生産資材の試験に取り組みに、先日その結果がまとまりました。今年度の取り組み内容としましては、ながいもについての新品種「ネパリストア」における栽培試験を行い、馬鈴薯では肥料を中心に株間・土壌硬度に基づいた調査を実施するなど、各部会での課題点について取り組んだ他、豆類ではセンチュウ抑制剤による効果確認や馬鈴薯・玉ネギでの肥料効果の確認試験等を行って参りました。

ご存知の通り今年につきましては6月以降の記録的な高温と、集中した豪雨により各作物とも生育障害や病害の発生が多い年となり試験圃につきましてもなかなか思い通りの結果が得られず、評価の難しいものが多いことから担当者泣かせの1年となりました。

試験結果につきましては今後各生産組合や部会、青年部での研修会等の中で報告をしていくほか、「試験結果報告書」としてまとめて皆さんにお届けしていきたいと考えております。

来年度におきましても各部会等からの要請や、普及の必要性が認められる栽培技術・生産資材に関する試験につきましては積極的に取り組んで参りますので皆様のご協力をお願いいたします。



◎ 対面型施肥相談システムを用いた土壌診断結果による施肥相談会の実施のご案内

今秋に実施した土壌診断取りまとめの結果、80件からサンプル数300点を超える申し込みを頂きました。現在提出されたサンプルは随時農協連で検査が行われており、分析結果は届き次第早急に送付致しますので宜しくお願いします。

さて、この土壌診断ですが、分析して終わりではなく、「分析－診断－処方（対策）」の流れで繰り返し行っていくことが重要です。そこで指導チームでは、マッピングシステムと連動した「対面型施肥相談システム」を活用した施肥相談会を来年2月下旬に開催する予定と致しました。肥料価格は高止まりの状況が続いており、施肥コストの低減は依然として大きなテーマとなっています。今一度自らの圃場状況を見つめ直す機会として頂ければと思いますので、奮ってご参加くださいます様に宜しくお願い致します。



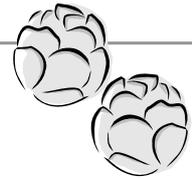
▶ 池田町物産展へ出展

12月4日に毎年恒例となりました池田町物産展を、本年は会場を利別の西部コミセンに移し当JAの他、池田町の企業が集まり盛大に行われました。

当JAでは豆を中心にゆり根、ジャガイモ、玉ねぎなどの青果物を販売してまいりました。お客様の中には、根室より毎年この日をめぐり豆を買いに来てくださる方もおりました。お正月用にと黒豆や、小豆、金時等の豆を買い求めてくれるお客様が多かったように思います。芋は、レッドムーン、とホッコイコガネを販売してきました。今後は、当JAで新たに取り組んでいるよもぎの加工品など販売していきたいと考えております。



▶平成22年産ゆり根～良質なゆり根が生産される～



H22年産ゆり根は10月から収穫作業が始まりました。玉は小玉傾向であり出荷数量も計画を下回りました。しかし、本年の高温・多湿の環境にも負けず、品質的には良好なゆり根が生産されました。全道的にも小玉傾向であり、出荷数量は当初計画よりも微減とのことです。

農業祭(11月17日～20日)においては、消費者から「この売り出しのゆり根を待っている」など嬉しいお言葉を頂き、地元でのゆり根の生産が浸透していることを実感しました。農業祭期間中の売り上げ実績も昨年を上回ることができました。11月24日には、清見地区の永原則之さん宅にて、りん片繁殖箱の入庫作業を行いました。今後、数回積み替え作業を行い3月中旬に出庫作業が行われる予定です。広報1月号が発行されている頃には、玉ゆりの販売も終了し、かきゆり販売も終盤を迎えていることと思います。

年明けの1月7日～30日にかけては、地元消費者・観光客へのPRのため、帯広市の北の屋台にてゆり根フェアが実施されます。各店オリジナルメニューが期間限定で展開されます。お出かけの際は、是非お立ち寄りください。

▶ねばりスター 2010年産 根張星 販売推進状況の報告 Part1(道内編)

2010年産 根張星(ねばりスター)は1haの作付け、また来年は面積が10haになる報告を受け、本年のうちに新たな販売先の開拓も進め、本年産の販売と次年度に向けた準備を進めています。現状、販売推進中の販売先もありますので、途中報告になりますが、お知らせ致します。

北海道販売

(1) 東光ストア

- ・昨年産に引き続き、販売を継続していただいています。
- ・東光ストア専用POP、商品シールを作成して販促を行っています
- ・12月にはキッコーマン食品とのコラボで、「しぼりたて生醤油」の試供品を添付した販売を実施しました。

(2) コープさっぽろ(協同購入 トドック)

- ・年内に2回の販売を行いました。
- ・トドックの全道30支部に試食品とチラシを配布し、配達員の方に試食してもらい、組合員への販促を行いました。
- ・400gカット品を差別化のため、真空パックで供給をし、初回企画にはチラシを同梱しました。
- ・初回1,300件、2回目約1,000件と400g398円売り、通常の長いもの倍の単価としては販売数上がり、やや高価でも差別化されたおいしいものを求めるニーズにこたえていく商品を目指しています。
- ・2月下旬以降企画で、単価・量目企画を工夫しながら、次年度に向けて、組合員に食べてもらい、次年度の販売につながる企画を提案してまいります。
- ・今後の提案ですが、キッコーマン食品とのコラボによるチラシ提案も検討していきます。

(3) コープさっぽろ(店舗)

- ・新規商品として、年末から札幌・道央圏・道東地区で、販売を開始します。差別化と高級感から、270g真空パックでの販売を行います。
- ・東光ストアとは別デザインの生協専用POP、商品シールによる販促を行います(畑の写真を入れた明るいイメージのPOPとシール)
- ・年明け以降は「三日とろろ」と生協の「おいしさ自慢」企画に乗せて販売拡大を目指します。
- ・2月以降、大型店限定で試食宣伝即売会も検討しています、この時に生産者の皆さんも店頭での販売に参加してほしいです。

※来月号では、道外の販売推進状況を報告致します。(㊦ワタリ 三上修司)



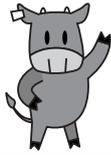
東光ストア用POP
(道外販売先でも使用予定)



トドック用リーフレット



コープさっぽろ用POP



畜産部通信

畜産部
畜産課

11月家畜市場成績（ホクレン十勝市場・十勝中央家畜市場開催分）

肉牛市場上位5傑（去勢）

【体重(kg)・金額(円)】

11月15・16日	父	母の父	母の祖父	日令	体重	価格(税込)	kg単価	日令単価	DG
1	安福久	平茂勝	安平	316	380	543,900	1,431	1,721	1.11
2	勝忠平	安平	神高福	302	346	537,600	1,554	1,780	1.05
3	百合茂	安平	隆美	252	319	528,150	1,656	2,096	1.15
4	勝忠平	安平	隆美	259	360	527,100	1,464	2,035	1.27
5	安糸福	平茂勝	茂重桜	252	300	525,000	1,750	2,083	1.07
全体	十勝平均			282	306	437,460	1,430	1,573	0.99
	JA十勝池田町平均			285	299	441,162	1,472	1,573	0.95
十勝最高	勝忠平	安福久	北国7の8	258	339	596,400	1,759	2,312	1.20

肉牛市場上位5傑（メス）

【体重(kg)・金額(円)】

11月15・16日	父	母の父	母の祖父	日令	体重	価格(税込)	kg単価	日令単価	DG
1	安福久	第1花国	安平	273	284	564,900	1,989	2,069	0.94
2	勝忠平	第1花国	神高福	257	299	521,850	1,745	2,031	1.05
3	北乃大福	平茂勝	北国7の8	275	304	500,850	1,648	1,821	1.00
4	百合茂	北国7の8	紋次郎	259	274	400,050	1,460	1,545	0.95
5	平忠勝	福之国	福桜	284	317	395,850	1,249	1,394	1.02
全体	十勝平均			295	291	358,182	1,234	1,224	0.89
	JA十勝池田町平均			290	280	355,301	1,267	1,243	0.87
十勝最高	平茂勝	安平	美津福	263	334	739,200	2,213	2,811	1.16

主要種雄牛別成績（去勢）

【金額(円)】

	種雄牛	取引頭数	平均価格(税込)
1	安茂勝	116	431,984
2	北平安	56	428,456
3	勝忠平	42	481,350
4	福安照	41	436,570
5	茂勝栄	40	418,583

主要種雄牛別成績（メス）

【金額(円)】

	種雄牛	取引頭数	平均価格(税込)
1	安茂勝	74	339,519
2	北平安	42	365,650
3	茂勝栄	37	322,038
4	平忠勝	30	343,770
5	安福勝	28	333,038

F1・育成・乳牛・馬市場

【金額(円)】

開催日	区分	取引頭数	平均価格(税込)
11月1日	乳牛育成	738	211,421
	農用馬1才オス	64	440,262
11月4日	農用馬1才メス	55	467,155
	農用馬3才以上メス	21	681,700
11月9日	乳牛初妊	481	504,041
	乳牛経産	69	298,352
11月17日	F1去勢	922	337,541
11月18日	F1メス	957	268,258
11月24日	乳牛初妊	625	515,427
	乳牛経産	102	261,326

枝肉市場

【金額(円)】

開催日	区分	取引頭数	平均価格(税込)
	黒毛去勢	A-5	1,883
		A-4	1,669
		A-3	1,411
11月6日	黒毛メス	A-5	1,871
		A-4	1,690
11月13日		A-3	1,419
11月20日	F1去勢	B-3	1,199
		B-2	1,028
11月27日	F1メス	B-3	1,100
		B-2	991

十勝中央家畜市場

【金額(円)】

開催月	区分	価格(税込)
11月平均	乳牛オス初生	44,598
	F1オス初生	157,661
	F1メス初生	98,254



▶「肉用牛繁殖管理ソフト(黒毛和種)」のご紹介について

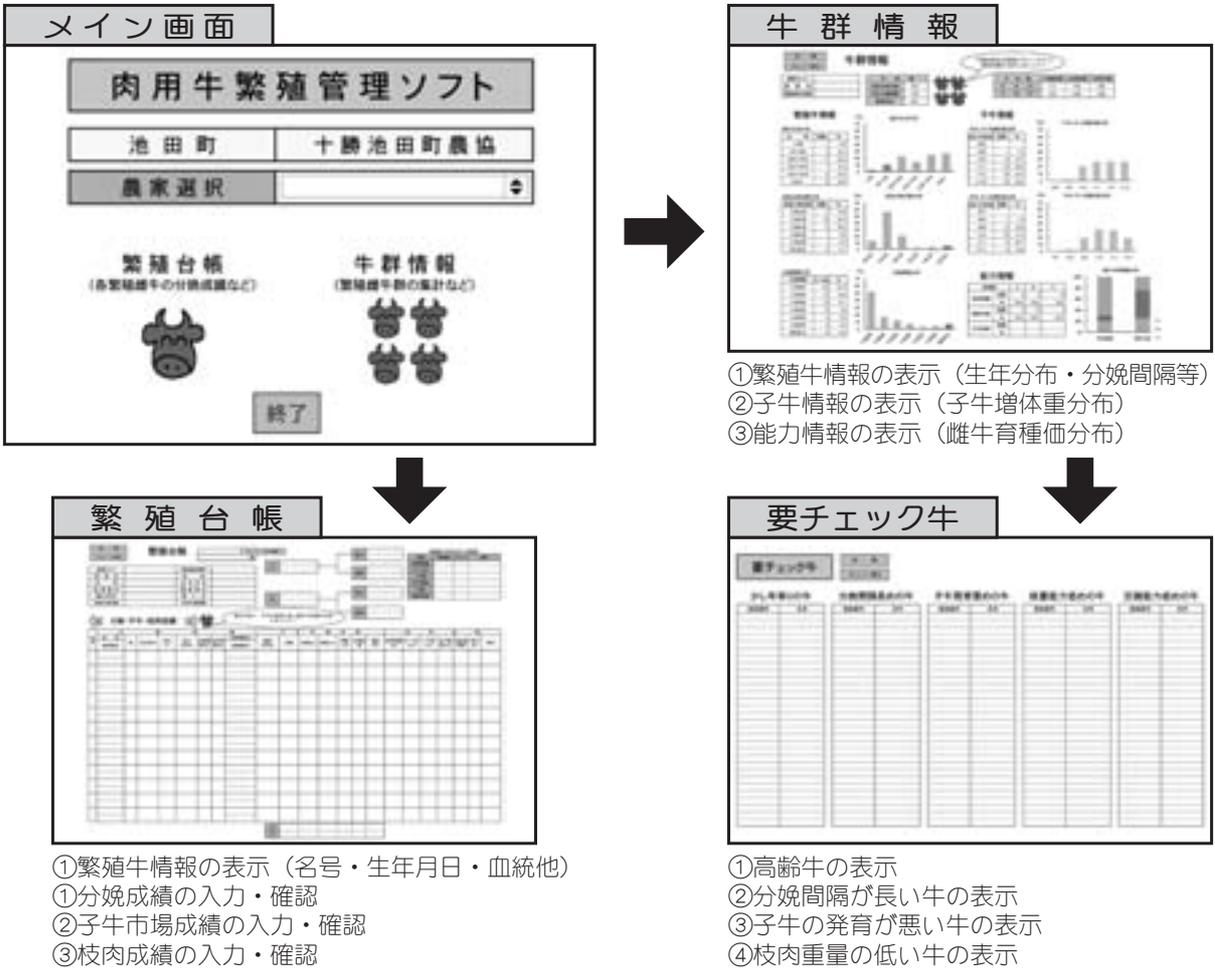
畜産部では、肉用牛繁殖台帳をパソコン上で簡単に管理できるソフトの制作を、新得畜産試験場のご協力により進めてまいりましたが、このたび「肉用牛繁殖管理ソフト」が完成し、12月17日、農協会議室において、黒牛部会による繁殖台帳勉強会が開催され、ご出席頂いた方にはソフトの配布を行いました。

これまで、各生産者の繁殖台帳を手書きで記入し、管理しておりましたが、今後はこのソフトを活用することで、事務効率の向上、また各生産者の繁殖牛成績を簡単に調べる事ができるようになりました。なお、このソフトは生産者の皆様が、ご自宅のパソコンでご自分の繁殖牛を管理することもできますので、ソフトについて簡単にご紹介致します。



繁殖管理ソフトの機能について

1. 繁殖台帳……繁殖牛ごとに分娩成績や子牛市場成績を表示します
2. 牛群情報……生産者ごとに分娩間隔や子牛の発育分布を表示します
3. 要チェック牛……繁殖成績が良好でない牛を表示します



黒毛繁殖農家の皆様へ

ご自宅でパソコンをお持ちの方は、このソフトを活用することにより、自分の牛群を定期的に数値やグラフで把握することができますので、是非ご活用ください(ソフトは畜産課にて配布しております)。また、パソコンをお持ちでない方におかれましては、畜産課にお問い合わせ頂ければ牛群情報等、印刷してお渡することも可能ですので、是非ご利用ください。

理事会の動き

第 10 回

〈平成22年12月27日〉

★ 報告事項 ★

- (1) 組合員の脱退について
- (2) 豆の集荷状況について
- (3) 共計品及び契約栽培豆類の生産について
- (4) 組合財務の現況について
- (5) 余裕金運用状況報告並びに保有目的区分について
- (6) 11月末基準決算について
- (7) コンプライアンスプログラムの取組状況について
- (8) 事業評価結果について

★ 議 案 ★

- (1) 組合員の資格変動と出資金持分減口承認願いについて
- (2) 組合員の脱退と出資金持分譲渡及び新規加入承認願いについて
- (3) 出資金持分譲渡承認願いについて
- (4) 相続による持分譲渡と新規加入承認願いについて
- (5) 出資金持分譲渡と新規加入承認願いについて
- (6) コンバインの払い下げについて
- (7) 自治監査に対する協議回答書(案)について
- (8) 経理規定の一部改正について
- (9) 利益相反管理方針及び利益相反管理規定の一部改正について
- (10) 与信取引に関する利用者への説明態勢にかかる規則の一部改正について
- (11) 役員選任実施日程について
- (12) 役員推薦委員の選任について
- (13) 北海道信連の外部出資の引受について

★ 協議案 ★

- (1) 総会までの行事日程について
- (2) 平成23年度経営方針および重点項目(案)について
- (3) 平成23年度固定資産取得計画(案)について
- (4) 冬期地区懇談会の開催について
- (5) 年末組勘整理の見込みについて

今月のオススメ

もちのピリ辛いためトッポギ風



撮影：松島均

材 料 (2人分)

切りもち… 3個(150g)
 キャベツ……………100g
 タマネギ…1/4個(50g)
 ニンジン ……………30g
 ニンニク……………1片
 ごま油 …大さじ1/2

A

砂糖 ……大さじ1/2
 コチュジャン 大さじ1
 しょうゆ 大さじ1/2
 水……………大さじ3

作り方 (1人分 約268kcal)

- ① もちは縦2等分して、オーブントースターでやわらかくなるまで焼きます(焼き目はつけない)。
- ② キャベツは2cm幅、5～6cm長さのざく切り、タマネギは薄切りにします。ニンジンは3～4cm長さの短冊切りにします。ニンニクはみじん切りに

します。

- ③ Aを合わせます。
- ④ フライパンにごま油とニンニクを入れ、中火にかけます。香りが出てきたら、野菜全部を加えて強火でいためます。③を加え、野菜がやわらかくなるまで4～5分いためます。①を加えてひと混ぜします。

新年、明けましておめでとうございます。お正月いかがお過ごしでしょうか？日本は年末から年始にかけて、クリスマス大晦日やお正月とあっといふ間に年を越してしまふくらいイベントが盛り沢山ですが、ようやく一息つけるころかと思えます。さて、皆さん初夢は何をこぼしにしましたか？初夢とは、元日から二日にかけてみる夢を初夢と言います。私は三十一日から一日にかけてみる夢が初夢だと今まで勘違いをしていたので、初夢の記憶がありませんが、最も良い夢は「富士三鷹三茄子」と言われている。縁起のよい夢を見る為には「宝船」の絵を枕の下に入れて寝ることをおすすめ。一月号がお手元に届くころは、皆さんはもう初夢は見終わっていると思いますが、今年も皆様にとって良い一年なることを願っております。(Y)

編集後記